

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型障害福祉サービス事業所 ライフチャレンジ		
○保護者評価実施期間	2026年3月2日		2026年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13件	(回答者数) 13件
○従業者評価実施期間	2026年3月2日		2026年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4件	(回答者数) 4件
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の活動プログラムが固定化されないよう工夫。	活動プログラムが固定化されないよう、定期的に5領域の添いながら子ども達のクエストも組み込んだ内容になる様定期的に見直しを行なっています。今年度は外部講師によるリズムトレーニングの導入、低学年～中学年向けのソーシャルスキルトレーニング学習を定期的に行いました。	子ども自身のニーズや家族の想いを汲み取りながら、5領域に沿い、子ども達が楽しみながら成長が促せる活動プログラムを立案・提供していきます。
2	法人の中で、年齢毎に事業所を分け、事業所間で連携しながら各ライフステージに合った支援を継続的に提供。また、地域移行を目的とした、法人開催のイベントや地域の施設を利用した活動内容を設定しています。	合同活動の場を定期的に設け、異年齢交流や今後年齢が上がって、事業所を移行した時を見据えての職員間での情報共有を行っています。地域移行の取り組みとしては、今年度、法人イベント(夏祭り、運動会)や地域の児童館、就労支援事業所バザー、学童イベントへ参加し、地域の方との交流を行いました。	今後も、法人全体で継続した支援を提供できる様、事業所間での情報共有や交流を定期的に行っています。また、市内の地域の方との交流を大切にしながら、子ども達に必要な資源の開拓を進めていきます。
3	研修制度の充実。	外部講師(SSTの土屋先生)をお招きして様々な研修や保護者面談を開催。今年度は児童発達支援センター「あすいろ」の巡回相談を利用し、実際に現場をみてもらい、環境設定や関わり方のアドバイスを頂き、支援の振り返りと今後の目標等を確認しています。	今後も、ご家族のニーズや事業所の課題に合った研修(性教育等)への参加、巡回相談等を通して、職員のスキルアップや子ども達が過ごしやすい支援や環境設定を行なっていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの特性に合った支援・環境設定	・人事異動や建物が一フロアの構造の為、活動内容によって場所を区切ったり、個室を利用しているが、場面によって賑やかさが学習スペースを利用している子どもの集中が途切れる事がある。	関係機関(ご家庭、小学校、併用事業所等)と情報共有しながら、個々の子ども達の特性、支援方法について定期的に職員間で話し合い共有認識で支援していきます。また、スーパーバイズの助言も参考に、子ども達が過ごしやすい環境設定を行なっています。
2	活動内容の保護者への周知	普段の申し送り等で療育内容を伝えているが、上手く伝わっていない事がある。	今後はシステム(HGUでの活動写真の掲載等)を活用しての療育内容や活動の目的や効果を保護者へ周知していきます。
3	業務や記録等をIT化して子供達と関わる時間を増やす。	業務をIT化して時代にあった業務効率に取り組み、簡素化できることは取り組んでいます。	情報収集とITを委託している企業さんと連携し、安定した業務効率を図っていきます。